

《担当者名》鎌田樹寛

【概要】

本研究科のディプロマポリシー「高度専門職業人としてリハビリテーション科学の実践に寄与できる優れた知識・技術と研究能力の基礎」を修得することを目指す科目である。テーマとしては、認知症に関するわが国の対策・対応（リハビリテーション）について系統的に学ぶ（本講義は、日本作業療法士協会「専門作業療法士（認知症；専門基礎）」との単位互換された科目である）。本授業では、認知症の専門基礎に位置付けられる「対象者に応じた適切な評価・治療ができる能力」の獲得を目的として学修する。

【学修目標】

一般目標

我が国の認知症リハビリテーション（主として、作業療法）の現状や認知症の基礎知識、評価方法、および治療について体系的に学び、理解を深めることを目標とする。

行動目標

1. わが国の認知症作業療法の現状について説明できる。
2. 高齢者の身体・心理・社会的変化について説明できる。
3. 認知症の疫学、歴史、医学的分類について説明できる。
4. 代表的な認知症を呈する疾患について、特有な症候を説明できる。
5. 認知症の画像的解釈について説明できる。
6. 認知症対象者の心理や病理について説明できる。
7. 認知症に関する評価法について説明できる。
8. 薬物的介入についてその効能が説明できる。
9. 非薬物的介入についてその効果・有用性を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	わが国の認知症リハビリテーションの現状	専門職業団体（例；日本作業療法士協会）が目指す認知症対策・対応について学ぶ	鎌田樹寛
2	認知症の基礎知識	老化や老化に伴う身体機能的変化、心理的变化および、ライフサイクルについて学ぶ	鎌田樹寛
3	認知症の基礎知識	認知症の疫学・歴史・医学的分類について学ぶ	鎌田樹寛
4	認知症の基礎知識	老年期に特有な症候（代表的な認知症を呈する疾患）について学ぶ	鎌田樹寛
5	認知症の基礎知識	画像的理解	鎌田樹寛 ゲストスピーカー
6	認知症の基礎知識	高齢者の心理とその病理1 ・認知症対象者への対応（事例性と疾病性の違い、病期による介入視点の違いなど）について学ぶ	鎌田樹寛
7	認知症の基礎知識	高齢者の心理とその病理2 ・症状の理解や基本的な介入姿勢について学ぶ	鎌田樹寛
8	評価	認知症の評価や評価法について学ぶ	鎌田樹寛
9	評価	リハビリテーション（作業療法効果）を示す評価法について学ぶ	鎌田樹寛
10	評価	研究紹介、紹介評価の実習	鎌田樹寛
11	認知症の治療	薬物療法について学ぶ	鎌田樹寛 ゲストスピーカー
12	認知症の治療	認知症対象者に実施される非薬物アプローチの概要に	鎌田樹寛

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		ついて学ぶ	
13	認知症の治療	手段としての手工芸について学ぶ（手工芸に対する自己効力評価）	鎌田樹寛
14	認知症の治療	手段としての音楽について学ぶ	鎌田樹寛 ゲストスピーカー
15	認知症の治療	手段としてのレクリエーションについて学ぶ	鎌田樹寛

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート100%

【教科書】

教科書：特に定めない。適宜資料を配布する。

【参考書】

参考書：必要があれば、講義の中で紹介する。

【学修の準備】

予習では、テーマに関する文献の検索や講読（80分）

復習では、配布資料に関する文献や関連論文の講読（80分）